

地方創成事業 里山フォレストフェス 地域ブランディングプロジェクト

ボランティア

地域交流

代表者：人文学部人文コミュニケーション学科 3年 今野 香織

連携先

里山ホテルときわ路
常陸太田市役所

顧問教員

小原 規宏（人文社会科学部・准教授）

参加者

今野 香織（人文学部人文コミュニケーション学科 3年）

大島 愛深（人文学部人文コミュニケーション学科 3年）

江口 雛乃（人文学部人文コミュニケーション学科 3年）

沢 葉里（人文学部人文コミュニケーション学科 2年）

岡部 智里（理学部理学科 2年）

プロジェクトの概要

●立ち上げの背景

本プロジェクトは、常陸太田市の里山環境について、あまり知られていないという現状を打破するため、自然環境の魅力発信に積極的な、常陸太田市にある里山ホテルときわ路と連携し、里山環境やその魅力を伝える活動を開始した。この活動を開始するにあたって、自然物を半永久的に保存し、見返すことで、自然資源の魅力に対する意識を高めようという考えから、自然物加工の方法が最も良いと判断した。従って、この工作体験で、常陸太田市の里山環境について学びながら、里山の

魅力を感じてもらうことを目的として立ち上げた。

●方法

- ①リーフキャンドル作り体験教室
- ②里山落ち葉レジンアクセサリ作り体験教室

目的の達成にあたって、以上2つの方法を取った。フォレストフェス内には、他の里山を体験するアクティビティもあった。（他のアクティビティに関しては、以下の写真を参照）それらと併せて、本プロジェクトの体験教室を行うことで、来場者が里山の魅力を発見する効果が高まると考えた。



里山フォレストフェスのチラシ

プロジェクトの成果報告

里山フォレストフェスは、2017年9月9日（土）と9月10日（日）の2日間にわたって、常陸太田市の里山ホテルときわ路を会場として、開催された。広報活動の一環として、里山フォレストフェス開催前の8月26日

(土)には、茨城放送のラジオ番組に15分間出演し、本プロジェクトの宣伝・告知を行った。

●9月9日(土)のプロジェクト内容

リーフキャンドル作り体験教室を行った。来場者に、会場内にある自然資源(落ち葉や木の皮)を拾ってもらい、拾ってきてもらった落ち葉を、キャンドルに張り付けていく。落ち葉が張り付いたら、剥がれ落ちないように、溶けた蠟の中に一度浸して、定着させる。出来上がったリーフキャンドルをラッピングして渡し、持って帰ってもらう。会場内には、手がかぶれる恐れのある漆の木があったため、その周辺区域には立ち入らないようにして、来場者の安全に配慮した。



リーフキャンドル作り体験教室の様子



完成したリーフキャンドル

●9月10日(日)のプロジェクト内容

里山落ち葉レジンアクセサリー作り体験教室を行った。里山フォレストフェス内で行われたネイチャーツアーにおいて、インストラクターから来場者に会場内の自然環境の説明があった。その説明を基に、落ち葉や木の実を拾ってもらった。拾ってきてもらったものに、UVレジンを塗り付けてもらい、紫外線で硬化させる。硬化したものを、アクセサリー、キーホルダー、バッジにして持ち帰ってもらった。



レジンアクセサリー作り体験教室の様子



完成したレジンアクセサリー

プロジェクトの成果

今回の、会場内での自然資源を加工し、持ち帰るといった体験を通して、来場者が里山の魅力を発見することができたと考えられる。特に、体験者には子供が非常に多くいたため、この体験を通して、次の若い世代の里山の自然に対する意識を高め、発展させる一助と

なったのではないだろうか。里山フォレストフェス内での他のアクティビティと本プロジェクトの体験を合わせることで、より来場者に里山の自然の魅力を発信することができた。先述したネイチャーツアーとレジンアクセサリー作り体験教室を合わせることで、来場者は里山の自然資源に対する知識を得ることができ、加えて自然資源をレジンアクセサリーとして持ち帰ることで、里山の自然環境に対する理解を深めることができたと考える。また、里山フォレストフェスの来場者は、すべて親子連れだった。体験教室では、親子で協力して、一つのものを作り上げるといった様子が見られ、親子の触れあいの場を作り出すことができ、貴重な思い出づくりの場ともなった。外部からの評価としては、里山ホテルときわ路の取締役の方から、「親子で、自然に触れ合う場として、とても良い活動だったと思う。」というお言葉を頂いた。また、来場者の方からは、「落ち葉などを加工し、持って帰るのは、今までに経験がなく、とても楽しんで作ることができた。」という声を多くいただき、非常に充実したプロジェクトとなったと感じた。



親子で協力しリーフキャンドルを作る様子

●反省と今後の展望

本プロジェクトは初めての試みであり、準備段階から手探りの状況が多かった。準備に

かける時間や、体験に必要なもの等の部分で、十分な準備ができなかったことが反省点として挙げられる。当初の計画では、プロジェクト参加者で里山の自然環境や自然資源に関する紙芝居やパネル等を製作し、里山フォレストフェス来場者に説明をする予定だったが、準備時間の不足によりできなかった。今回は、ネイチャーツアーでインストラクターから来場者に会場内の自然環境の説明を行っていただいたが、次回はプロジェクト参加者が里山の自然環境に対する理解をより深め、準備時間を確保することによって、体験教室参加者に里山の自然環境や自然資源に関する説明ができるよう努力したい。また、里山フォレストフェスについての広報活動が不足していた点も反省点として挙げられる。茨城放送のラジオ出演は行ったが、SNSでの告知やチラシの配布等の基本的な広報活動をあまり行うことができなかった。これは、先述した準備時間の不足によるものだったが、里山ホテルときわ路と本プロジェクトの連携不足でも考えられる。次回は、連携先との連絡を密に取り合い、より大規模な広報活動を行っていききたい。

最後に、今後の展望として、本プロジェクトの最終目標は、常陸太田市の里山資源について多くの人々が知識を増やし、またそれにより地元のみならず、他の地域の人々も常陸太田市の里山の魅力を発見することである。加えて、この里山の魅力を活かした観光の発展により、常陸太田市の内部を盛り上げ、同市からの人口流失を防ぎ、過疎化の停滞の一助となれば、本プロジェクトの意義は非常に高まる。この最終目標の実現のためには、今回のような活動を継続的に行っていく必要があると考える。